

第7回

くらしきコンサート

第8回



10/26(土)PM3:00
倉敷市民会館
親と子のための
オーケストラコンサート

「ファウスト博士のものがたり」

●ベルリオーズ作曲 妖精の踊り/ラコツツィ・マーチ/鬼火のメヌエット/ほか

指揮
と
お話 小澤征爾 オーケストラ
新日本フィルハーモニー交響楽団

主催=くらしきコンサート 共催=山陽新聞社/山陽放送

後援=岡山県郷土文化財団

〈チケット〉全自由席 2人券(親と子一人) 7,000円
3人券(親と子二人) 10,000円
(子供=小・中・高校生)
一般 5,000円

10/27(日)PM1:30
倉敷市民会館

●バッハ生誕300年記念

小澤征爾とバッハをうたう

バッハ不滅の金字塔

「ミサ曲ロ短調BWV232」

指揮 小澤征爾 オーケストラ
新日本フィルハーモニー交響楽団

ソプラノ=佐竹なおみ/メゾ/ソプラノ=木村宏子/アルト=伊原直子
テノール=佐々木正利/バリトン=勝部太/バス=池田直樹
合唱指揮=関屋晋・近藤安介
合唱='85くらしきコンサートバッハ記念合唱団(協力・岡山県合唱連盟)

主催=くらしきコンサート 共催=山陽新聞社/山陽放送
後援=岡山県郷土文化財団/倉敷市教育委員会/NHK岡山放送局

〈チケット〉
S=7,000円 A=5,000円 B=3,000円

お問合せ・ご予約=くらしきコンサート TEL 0864-22-2140/03-499-2006

前売所=岡山市天満屋/ぎんざや/岡山高島屋/太田洋行/メディアコム/アンダンテ <倉敷市>天満屋倉敷店/倉敷三越/富山レコード/藤岡楽器店

<津市>平和堂楽器/吉田楽器 <三原市>天満屋三原店 <福山市>天満屋福山店/スガナミ楽器店 <広島市>天満屋広島店

くらしきコンサート

「みそ汁とパスポート」 小澤征爾・武満 徹

武満 あなたは西洋音楽の勉強を専門に行い、しかも現在までに、世界の第一級のオーケストラの多くの指揮者です。にもかかわらず、あなたが24歳で世界に向かって「音楽武者修行」に出発するときには、日の丸をつけた日本製のスクーターにまたがって行きましたよね。(注・新潮文庫、小澤征爾著『ボクの音楽武者修行』参照)。そして僕の見る範囲では、時には、相当な愛国者であり、もしかしたらかなりのナショナリストであり、右翼っぽい人ではないかと疑問を持ったりもするんですけれども、あなたの特徴はそれと同時に、それと等量以上の《自由さ》を持っていることです。本当の自由人はやはり自分の祖国を愛している、と言えるひとつの典型かもしれない、と思ったりする。

小澤 僕はね、時どき、自分でも苛いらするほど、あなたの言われることを感じるんですよ。そこで最近、自分の《日本への感情》を整理して考えてみようとしているところなんです。第一に、僕は日本を愛しているんだね。日本に帰れば、家族に会えるからうれしくてしょうがないし、日本にずっといる人から見れば、僕がばかに見えるだらうけれど、例えば、そば屋に行くのがうれしくて、毎日そばを食べたり、一杯飲み屋へ行ったり、日本の生ビールがうまかったり……。

武満 僕もそういうことは絶対にひけをとらない(笑)。

小澤 そして僕の場合、特に、生まれつきの血というかスキンは絶対変わらないのね。どんなに永く外国にいても変わらないのね。パスポートなんかは変えようと思えば、僕の場合いくらでも変えられる。中国人のパスポートが欲しければ貰えるだろうし、イスラム教徒になろうと思えばおそらく可能だろうし、アメリカの国籍を貰うことも出来るよ。しかし僕の場合、いくら国籍を変えて仕方がないのね。血も肌も感じ方も考え方も変わらないんだから。子供の頃に好きだったものは大人になんでも好きなんだから。そうすると自分にとって一番大事なものは何かと考えてみると、日本国と書いてあるパスポートじゃないし、国籍でもない。おれが「日本」と言って愛しているものはいったい何か? とね。そうするとね。それはね、結局、帰郷本能みたいなものだろうね。それは多分、僕が子供の頃からなじんできた、食習慣であったり、文化的伝統であったり、感受性であったり、友人たちであったりするものの総体だと思うんだよ。だからいわゆる国粹主義ではないんだよ。

武満 なるほど。

小澤 日本国でも、歴史上、幾多の政治権力が交替してきた。しかしみそ汁はあまり変ってないし、四季の変遷も変わってないのね。それが日本人の血というものだと思うんだ。だから、

僕の日本に対する愛は、みそ汁に対する愛国心みたいなものだよ。

武満 ハッハッハッハッハッ……。実に面白いね。

小澤 ゆえに、僕の友人のロストロボーヴィッチ氏が、例え、ソヴィエトの市民権を剥奪されても、彼は相変らずロシア人の臭いをブンブンさせているロシア人なんだよ。だから、ほんとうは人間にとって国籍やパスポートが重要なのではなく、ボルシチやみそ汁が重要なんだよね。

武満 それが各民族の個性というものだなあ。

小澤 したがって、僕にとって、この日本という狭い島国のどこかにつながりがありつづけるんだよね。

武満 僕もその狭い日本を離れると作曲ができなくなっちゃうんだよ。血のちがい、肌のちがい、土のちがいかどうか分からなければ。いつも五線紙は持って海外に行くんだけどね。どうしても作曲ができない。

—— 中 略 ——

小澤 おれなんか日本が好きで、味わうものがいっぱいあって、家族がいて、母親がいて、兄弟がいて、友だちがいて、食物も、飲み食いも、みんな好きなのに、アメリカに着くと「ああ帰った」と思って本能的に心楽しいね。これも矛盾だな。

武満 おれもそうなんだよ。なぜだろう。外国に出ると作曲ができなくなるくせに、ニューヨークに着くと「ホッ」とするね。街を歩いていても「歩いている」という感じがする。知っている人がいないとかいうのではなく、友人がいても、何を着ていてもいいし、なに食べてもいいし、どんな会に出席していても平気で自己流の話しが出来、好きな時に帰ってきて、自分が嫌だったら嫌だと言える。日本にいるとそれが少ない。

小澤 日本だと、いくら時間があっても散歩しようという気がしないけど、ボストンに帰ると散歩するんだよ。

武満 いや、君の住んでいるボストンは特別だよ。東京やニューヨークとは違うんだよ。

小澤 ニューヨークはアメリカじゃないよ。

武満 ニューヨークの人は東京と一緒に跳ぶように歩いている。あれは都市の機構なんだよ。五番街を除くと、道は目的地へ達するためにある道なんだ。ボストンのなかでも君のところは格別に樹が多くて静かだな。

小澤 アメリカはみな静かだよ。